

## 医療観察法病棟に携わる看護師が捉える内省のインタビュー調査

～内省に対する視点やアプローチ, 判断するポイントの実態を明らかにする～

西尾佑介 山根憲恵 北山明子 小川佳子 沖好子

鳥取医療センター看護部 10 病棟

\*Correspondence: byoutou9@tottori-iryu.hosp.go.jp

### 要旨

医療観察法では, 対象者が内省を深めることが再犯防止に必要とされている. しかし, 内省の深まりが重要とされながらも, 判断する指標は定められていないため, 個々の看護師の判断や力量で模索しながら対象者に関わり, その関わりは共有されていなかった. そのため, 研究者は自身の関わりに対して自信が持てなかった. そこで, 医療観察法に従事する看護師に対して, 対象者の内省への視点やアプローチ, 判断するポイントの実態について調査したいと考え, 今回の研究に取り組んだ. その結果から, 5名の看護師の内省の捉え方は概ね共通していたこと, 看護師の内省への関わり方には2つの視点があったこと, 内省を判断するポイントには3つの視点があったことが明らかになったので報告する. 鳥取臨床科学 7(2), 122-128, 2016

**Key Words:** 内省, 再犯防止, 半構造化インタビュー, 医療観察法, 精神科

### はじめに

医療観察法では, 対象者の病状の改善及びこれに伴う対象行為の再犯防止を図り, 社会復帰を促進することを目的としている. その中で, 再犯を防止するためには, 対象者が内省を深めることが必要とされている. 熊地<sup>1)</sup>は, 「対象行為への内省を深めていくことは, 治療への動機付けを深めていくことにもつながり, 再び同様の行為を起こさないための対策を考えていくうえで極めて重要となる.」と述べている. しかし, 医療観察法において, 再犯防止のために内省の深まりが重要とされながらも, それを判断する指標は定められていない.

研究者等は, 精神保健福祉法下の病棟において従事している際には内省という言葉聞いたことが無く, 医療観察法に携わるようになり初めて知った. 病棟では, 内省に関する研修や

プログラムの学習会を受けたうえで, 対象者への関わりや日々のプログラムに参加をしている. その際, 内省を深めるために, 対象者にどのように関わるかは個々の看護師の判断や力量に任されており, その関わりは共有されていなかった. そのため, 研究者は対象者への日々の関わりやプログラムでの対応に自信が持て無かった.

そこで, 医療観察法病棟に従事する看護師に, 対象者の内省への視点やアプローチ, 判断するポイントの実態について調査してみたいと考えた. その結果から内省に対する視点や判断するポイント・アプローチの実態が明らかになり, 共有することができれば, 経験の少ない看護師でも対象者の内省を深める関わりが出来ると考え, 今回の研究に取り組んだ.